

# 『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。  
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第56号(2010年6月11日)上海万博① 大阪万博から30年



## ついに開幕

2010年5月1日、中国経済成長の起爆剤の一つと期待される「上海国際博覧会」、通称「上海万博」の幕が開かれました。本レポート「ぱんだより」ではこれから数回にわたって、様々な視点から、「上海万博」を通し、中国経済を分析していきたいと考えております。初回は、上海万博の概要、および1970年に開催された大阪万博との比較について説明いたします。

上海万博のマスコットキャラクターが「海宝」(ハイバウ)に決定しました。今回の万博のテーマは「より良い都市、より良い生活」です。「海宝」は、漢字の「人」という字がモチーフになっています。より良い都市、より良い生活を作り上げていくには人の力が重要であり、人と自然、社会の融合による、人類の発展への思いが込められています。このようなマスコットの設定からも、「調和の社会」を目指す中国の決意が感じられます。

約160年の万博の長い歴史の中で、今回が初めての発展途上国での開催となります。また、参加国数と目標入場者数ともに史上最大規模で、世界中から注目されています。現時点で最大入場者数を誇る大阪万博は当時日本の高度経済成長において重要な通過点であり、大阪万博と今回の上海万博を比較すると、これからの中国経済の成長を予想する上で大変参考になります。

上海市が目標とする入場者数は7,000万人です。この数字を達成するには一日あたり約40万人の入場者が必要とされますが、開幕後1週間、10万人台の入場者数であるにもかかわらず、会場が大混乱していた様子が各メディアに報道され、目標とする7,000万人を達成するのは現実的に難しいのではとの声もあがりました。しかしながら、5月半ば以降、入場者数は右肩上がりに伸び続け、6月5日(土曜日)には、早くも1日52万4,900人の入場者数を記録しました。一部の専門家の中では、1億人を超える入場者数が見込めるとの見方も出始めています。

## マスコットキャラクターの『海宝』



	大阪万博	上海万博
会期	1970年3月14日～1970年9月13日	2010年5月1日～2010年10月31日
テーマ	人類の進歩と調和	より良い都市、より良い生活
目標入場者数	3,000万人	7,000万人
総入場者数	6,421万8,770人	???
参加国数	77カ国4国際機関	242カ国および国際機関

出所:各資料により、スパークス・アセット・マネジメント作成



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



## 日本と30年の差？

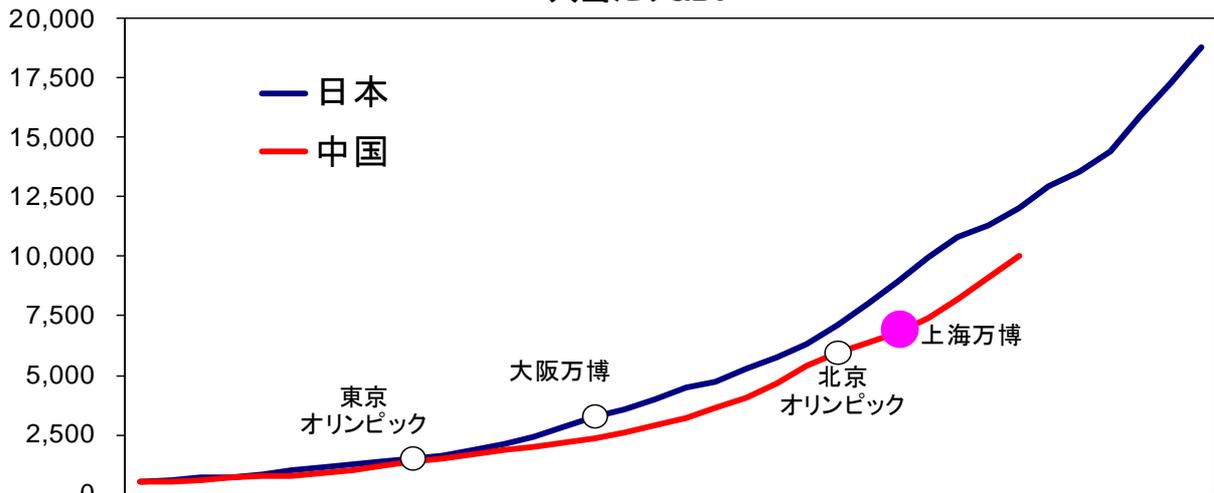
下のグラフのように、中国と日本の一人当たりGDPを30年ずらしてみると、両国の共通点が分かります。中国の一人当たりGDPが30年前の日本の一人当たりGDPと似通った推移になっているのが見て取れます。また、両国とも高度経済成長期において、世界的大型イベントであるオリンピックと万博を経験しています。成長過程が類似していることから、中国でも今の中国の経済状況を70～80年代の日本と比較することがよくあります。日本の経済成長の成功事例やその後のバブル崩壊に至った経緯などについては、多くの中国国内の経済学者によって研究されています。

しかし、日本と中国の経済には決定的な違いがあります。それは『人口』です。中国の一人当たりGDPは、ようやく30年前の日本を追いつこうとしています。人口のスケールの違いにより、中国は長期にわたって成長するポテンシャルがあると考えられます。

上海万博をきっかけにアジアの中でも存在感のある中国経済、更なる飛躍が期待されます。

※(PPPドル)

一人当たりGDP



(年)	中国	85	88	91	94	97	00	03	06	09(e)	12(e)	15(e)
日本	55	58	61	64	67	70	73	76	79	82	85	88

注:2009年以後のデータはIMFの予測、グラフの期間は、日本が1955年～1988年、中国が1985年～2015年

※PPPドル:購買力平価ベースの米ドル

出所: IMF世界経済見通し2009年10月 OECD

(編集後記)6月13日予定されていた日本の人気グループ「SMAP」のイベントが安全上の理由で中止されたことに、中国のファンから不満が噴出しているようです。安全上、仕方ないですが少し残念ですね。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。